

8月日程
06.08.20

2025 年度（令和 7 年度）

社会科教育コース

試験問題表紙

解答上の注意

1. 表紙 1 枚・問題用紙 2 枚・解答用紙 2 枚があるかどうかを確認すること。
2. A～D の四つの問題群（社会科教育・歴史・地理・公民）から一つを選択し、それぞれの指示に従って解答すること。
3. 解答用紙 1 枚目の選択受験問題群表に、選択した問題群を○で示すこと。
4. 全ての解答用紙の受験番号欄に受験番号を記入すること。
5. いずれの問題群を選択した場合でも、1 問題に 1 枚の解答用紙を用い、それぞれの解答用紙に解答する問題番号を記入すること。
6. 解答は解答用紙の表面の解答欄（罫線部分）にのみ記入すること。
7. 試験終了後は解答用紙のみを回収するので、解答用紙以外は試験問題表紙を含め持ち帰ること。

問題群 A (社会科教育)

次の文章を読み、問題1・問題2に答えよ。

2016年度の選挙権年齢の引き下げに続き、2022年4月から成人年齢も「18歳以上」に引き下げられた。これを受け、小学校・中学校・高等学校などの異校種間連携や学校外の機関との連携を視野に入れた「主権者教育」の必要性が高まっている。

問題 1

「国家・社会の形成者」の育成を目標とする社会科、地理歴史科、公民科といった社会系教科では、「主権者教育」にかかわる授業として、どのようなものが考えられるだろうか。小・中・高等学校の社会系教科・科目の中から任意に主題を設定し、具体的な授業展開を構想し、説明せよ。

問題 2

問題1で説明した授業展開を通して、どのような資質・能力が身に付くと考えられるだろうか。また、その実現のためには、どのような学習評価が適切であると考えるか。育成される資質・能力と対応する学習評価の構想を論ぜよ。

問題群 B (歴史)

問題3～問題6の4題より2題を選んで解答せよ。

問題 3

近世における政治改革のうち、享保の改革・寛政の改革・天保の改革は、「三大改革」と表現される場合がある。各改革の特徴を具体的に説明しながら、「三大改革」と捉えることの問題点を論ぜよ。

問題 4

次の語句のうち2つを選択し、それぞれの内容と歴史的意義について説明せよ。

- (1) 経塚 (2) 寺社参詣 (3) 民本主義 (4) 国際連合

問題 5

イマニュエル・ウォーラーステインの「世界システム論」を援用して、19世紀後半の「一体化した世界」の構造と特質を論ぜよ。

問題 6

ドイツの歴史家レオポルト・フォン・ランケによって確立されたと言われる「近代歴史学」の有効性と問題点について論ぜよ。

問題群 C (地理)

問題7～問題10の4題より2題を選んで解答せよ。

問題 7

地誌と系統地理の違いについて、高校地理の授業内容に照らし合わせながら述べよ。

問題 8

人口の東京一極集中の要因について述べよ。

社会科教育コース 試験問題

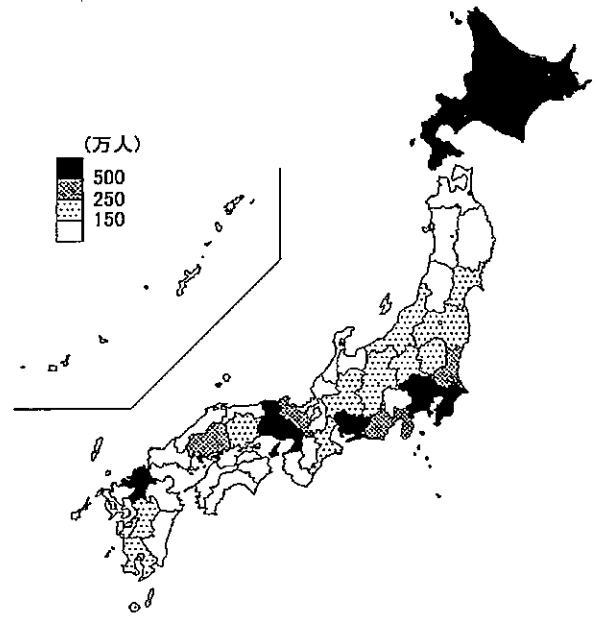
問題用紙 全2枚 (その2)

問題 9

右図は都道府県別の人口（2020年国勢調査）を段彩図として示したものである。地図表現に関してこの図の不適切な点を指摘せよ。

問題 10

社会生活について考える場合には、基本的に物理的距離よりも時間距離・経済距離などを重視すべきであると考えられる。その理由を述べよ。



問題群 D (公民)

問題 11～問題 14 の 4 題より 2 題を選んで解答せよ。

問題 11

日本の長期金利（10年国債利回り）は長い間日本銀行の長短金利操作政策によってゼロ近辺に抑えられていたが、2023年以降長短金利操作政策を修正した影響で金利が上昇し始めた。2023年12月29日の財務省の金利情報では長期金利は0.667%、超長期金利（30年国債利回り）は1.662%となった。2024年に日本銀行がマイナス金利政策を解除した場合に日本経済に与える影響について、論ぜよ。

（参考：財務省「国債金利情報」https://www.mof.go.jp/jgbs/reference/interest_rate/index.htm、最終確認 2024年6月18日）

問題 12

日本経済団体連合会の調査によると、2023年の賃上げ率は大手企業で3.99%、中小企業で3.00%となり、過去10年で最大の伸び率となっている。賃上げ率の上昇が日本経済に与える影響について、論ぜよ。

（参考：内閣官房新しい資本主義実現本部事務局「基礎資料」https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/kaigi/dai21/shiryou1.pdf、最終確認 2024年6月18日）

問題 13

C. ライト・ミルズのいう「社会学的想像力」とは何か、具体的に説明せよ。

問題 14

ジュディス・バトラーの『ジェンダー・トラブル』（青土社、1999年）は、ジェンダーに対する見方を大きく変えたといわれる。具体的にどのように変えたのかを論ぜよ。